

富山県

南砺市埋蔵文化財分布調査報告7

- 井波地域2 -

2011年度

2012年3月

南 砧 市 教 育 委 員 会

富山県

南砺市埋蔵文化財分布調査報告7

- 井波地域2 -

2011年度

2012年3月

南 砧 市 教 育 委 員 会

序

南砺市には、国指定の高瀬遺跡や世界遺産にも登録されている相倉・苔沼の合掌造り集落などの貴重な文化財が数多く存在しています。また、遙か太古からの先人の営みも残されており、立野ヶ原台地における旧石器時代の遺跡群をはじめ、市内の各所には縄文時代から中近世までの遺跡が多数確認されています。

このような文化財は、現代に生きる我々が未来へと受け継ぐ財産です。地域で産まれ、育まれてきた文化財は保護・活用することで地域の発展に貢献すると考えております。市内に残された遺跡は市の歴史を語るうえで他に代えることのできない貴重な資料であり、大切な文化遺産です。

市教育委員会では遺跡の把握、保存に努めるために詳細分布調査を行っています。市内の遺跡地図を充実させることは、今後の遺跡の保存と整備、開発行為との調整において欠かせません。

この報告書が今後の学術研究や、郷土の歴史を知るための参考となり、文化財保護に対する理解の一助になりましたら幸いです。

最後に、調査の実施にあたり、多大なご協力とご理解をいただきました地元の方々、関係者の方々に深く感謝申し上げるとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月

南砺市教育委員会
教育長 浅田 茂

例　　言

1 本書は南砺市教育委員会が国庫補助をうけて実施している、市内遺跡詳細分布調査（2011年度）の調査報告である。

2 調査は富山大学考古学研究室の指導と協力を得て、南砺市教育委員会が主体となり実施した。

3 今年度の調査は、南砺市井波地域井波地区（井波・北川・藤橋・松島・山見・五領島）、南山見地区（院瀬見・東城寺・清玄寺・逆代寺・志観寺・谷・戸板・川原崎・沖・南山見新）、高瀬地区の一部（高瀬・神子畠・勧学院・北山・三清東）を対象とした。調査期間は次のとおりである。

平成23年4月9日（土）～4月10日（日）および 平成23年10月8日（土）

4 調査事務局は南砺市教育委員会文化課におき、文化財係長山田修弘、文化財係主任佐藤聖子・宮崎順一郎が調査事務を担当し、文化課長浦辺一成が統括した。現地踏査、資料の整理、本書の執筆と編集は、以下の調査担当者、調査補助員が分担して行い、執筆の分担は文末に記した。

調査担当者 富山大学人文学部考古学研究室 教授 次山 淳

同 准教授 高橋浩二

南砺市教育委員会文化課文化財係 主任 佐藤聖子

同 主任 宮崎順一郎

調査補助員 舟崎久雄・閔森 想（富山大学人文学部考古学研究室大学院生）

河合陽介・井澤昇・井上恭一・岩崎俊樹・北島裕子・塩澤恭輔・瀬原史織・宮崎厚平
(富山大学人文学部考古学研究室四回生)

今井翔・大澤拓馬・工藤海・三宅克幸

(富山大学人文学部考古学研究室三回生)

金田朋子・小谷望有季・清水後輝・寸田彩加・山下大希・山場愛弓

(富山大学人文学部考古学研究室二回生)

河合陽子・西川和美（南砺市臨時雇用職員）

5 現地調査では井波地域各地区の方々に多大なご協力、ご理解を得た。記して深く感謝したい。

6 採集遺物および記録図面は、南砺市教育委員会が保管している。

7 本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。

(1) 方位は真北である。

(2) 挿図の遺物実測図の縮尺は1/3である。

(3) 写真図版の遺物番号は遺物実測図の番号と一緒にする。

本文目次

序 文	
例 言	
目 次	
I 位置と環境	1
II 調査の経過	2
第1表 調査区内の埋蔵文化財包蔵地	3
III 調査の概要	6
1 遺跡と採集遺物	6
2 遺物の散布状態	14
3 平成22（2010）年度調査地区との比較	15
IV まとめ	16
参考文献	16
第2表 調査結果一覧	17
図 版	
写真図版	

図版目次

第1図 南砺市位置図	
第2図 調査地区割図 (1/200,000)	
第3図 調査地区概要図 (1/30,000)	
第4図 調査結果概要図 (1/15,000)	
第5図 縄文・弥生～古墳の遺物散布状況 (1/20,000)	
第6図 古代の遺物散布状況 (1/20,000)	
第7図 中世の遺物散布状況 (1/20,000)	
第8図 近世・近代の遺物散布状況 (1/20,000)	
第9図 遺物実測図 (1)	
第10図 遺物実測図 (2)	
第11図 遺物実測図 (3)	
第12図 遺物実測図 (4)	
第13図 遺物実測図 (5)	

写真図版目次

図版 1 遺跡全景 (1)	図版 9 遺物写真 (1)
図版 2 遺跡全景 (2)	図版 10 遺物写真 (2)
図版 3 遺跡全景 (3)	図版 11 遺物写真 (3)
図版 4 遺跡全景 (4)	図版 12 遺物写真 (4)
図版 5 遺跡全景 (5)	図版 13 遺物写真 (5)
図版 6 遺跡全景 (6)	図版 14 遺物写真 (6)
図版 7 遺跡全景 (7)	
図版 8 調査風景	

I 位置と環境

平成16年11月1日、砺波地方所在の八町村であった城端町、平村、上平村、立賀村、井波町、井口村、福野町、福光町が合併し南砺市が誕生した。南砺市は富山県の南西部端に位置し、北は砺波市、小矢部市に、東は富山市に、西は石川県金沢市、南は岐阜県飛騨市や白川村に接している。山間部は、白山国立公園に指定され、すぐれた自然景観を残しており、庄川や小矢部川の流れる平野部は水田地帯として、また、「散居村」として知られている。面積は668.86平方kmで東西約26km、南北約39kmに広がっている。

旧石器時代の遺跡は、福光・城端両地域の境に位置する立野ヶ原を中心広がっており、点在する144か所の遺跡は立野ヶ原遺跡群と呼ばれている。めのうや鉄石英が豊富で、それらを利用した石器製作場所がいくつか確認されており、富山県内でも最も古い遺跡群の1つとして知られている。

縄文時代に入ると、生活の場は平野部にも広がる。草創期から前期にかけて確認している遺跡数は少ないものの、中期には西原A遺跡や徳成遺跡、後・晩期には後期の指標遺跡である井口遺跡をはじめ安居五百歩遺跡、五瀬遺跡がある。

弥生・古墳時代の遺跡は、確認されている数が少ないが、近年の土場整備事業等により神成遺跡では、弥生終末期から古墳時代にかけての堅穴住居や周溝構造を確認しており、また梅原安丸Ⅲ遺跡では、古墳時代中期の堅穴住居を確認している。

古代の遺跡には、7世紀・9世紀の堅穴住居跡を約10棟確認した在房遺跡や、9世紀前半の梅原落戸遺跡がある。その他、中世の指標となる大集落として知られる梅原胡摩堂遺跡の東側で、8世紀から10世紀にかけての堅穴住居等の遺構を確認している。またこれら古代の集落に日常食器を供給していたであろう窯に安居・岩木窯跡群がある。

中世には、平野部に大規模な集落が広がる。梅原胡摩堂遺跡をはじめ久戸遺跡から田尻遺跡に至る中世集落跡は南北2km、東西1kmにわたり、掘立柱建物、堅穴状土坑、井戸、区画溝などの遺構や、中世上師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸などの遺物が多く確認されている。

今年度の対象地域は、井波地域井波地区（井波・北川・藤橋・松島・山見・五領島）、南山見地区（院瀬見・東城寺・清玄寺・連代寺・志観寺・谷・戸板・川原崎・沖・南山見新）、高瀬地区の一部（高瀬・神子畠・勘学院・北市・三清東）である。

井波地域は高清水山系の八乙女山麓に広がり、砺波市と接する。当地域には越中一宮の高瀬神社がある。『続日本紀』宝亀11年（780）に高瀬神が從五位下を叙せられ、『三代実録』貞觀元年（859）までに正三位の神階昇叙がなされ、越中では最も社格の高い神社となっている。また、平安時代から中世には白山山岳修験道が医王山山麓一帯から高清水山麓に発達し、その後、市街地の南側の山麓には閑乘寺・志観寺・清玄寺・連代



第1図 南砺市位置図

寺、東城寺などの真言・天台の寺が多くできた。やがて北陸に浄土真宗が急速に浸透し、瑞泉寺が築かれ、蓮如のころには城郭武装した寺院として勢力を持ち一人真宗平岡の拠点となった。今回調査した井波・南山見・高瀬地区には周知の埋蔵文化財包蔵地として縄文・古代・中世の遺跡が存在する。縄文時代の遺跡は高瀬遺跡、院瀬見滝谷遺跡、院瀬見薬師遺跡、東城寺遺跡、連代寺中之島遺跡、井波中学校遺跡がある。は場整備の際に試掘調査が行われた遺跡もあるが、ほとんどが散布地である。古代の遺跡は莊園管理所跡である高瀬遺跡がある。高瀬遺跡は昭和37年からその存在が知られ、昭和46年にはは場整備とともに発掘調査が実施された。その結果、主殿・脇殿・河川跡・横跡などが次々と確認され、役所跡とされる石仏地区が国の史跡に、役人や豪族の住居跡とされる穴田地区が県の史跡に指定された。中世の遺跡には南砺市指定史跡となっている井波城跡がある。井波城は城郭武装した瑞泉寺が天正9年（1581）、佐々成政により陥落した後、成政の家臣前野小兵衛によって整備された城である。この城が機能していた期間は短く、天正13年、秀吉の越中進攻とともに、わずか4年で魔城となっている。城の規模は東西250m、南北230mで、土塁や外堀などの遺構は現在でもよく残っている。

（宮崎順一郎）

II 調査の経過

平成16年11月の町村合併までに各々の旧町村で確認していた埋蔵文化財包蔵地（以下、「包蔵地」）の数は、590ヶ所あまりである。これらの包蔵地の多くは、古い伝承に基づくもの、開発行為にかかる事前調査によって発見されたものである。町村合併時において、詳細な分布調査が行われていたのは、旧福野町全域、旧城端町域の平野部、旧福光町・旧井口村域において県営は場整備事業等の大規模な開発行為が行われた地域のみであった。市内には、未だ包蔵地の詳細が全く確認されていない未調査地区が多く、包蔵地の保護と開発行為との円滑な調整を計っていくためにも、詳細な分布調査を実施することとなった。

分布調査の実施については、旧城端町で平成13年度より7ヶ年にわたって町全域を調査する予定にしていたが、町村合併にあたり計画変更を行い、平成18、19年度に調査予定であった旧城端町域の山間部を先送りし、未だ未調査地区が多い南砺市の平野部について先行し調査を行うこととした。

南砺市平野部における未調査地区は、福光地域（調査実施済みである北山田地区、高宮・小林・殿の一部、岩木、祖谷、竹内を除く）、井口地域の一部、井波地域、平地域、上平地域である。このうち、福光地域を4分割、井波地域を2分割、井口地域、平地域、上平地域を合わせて2分割し、未調査地区を8分割し8ヶ年で南砺市平野部の調査を実施することとした（第2図参照）。調査の成果は年度毎にまとめ公表する予定である。

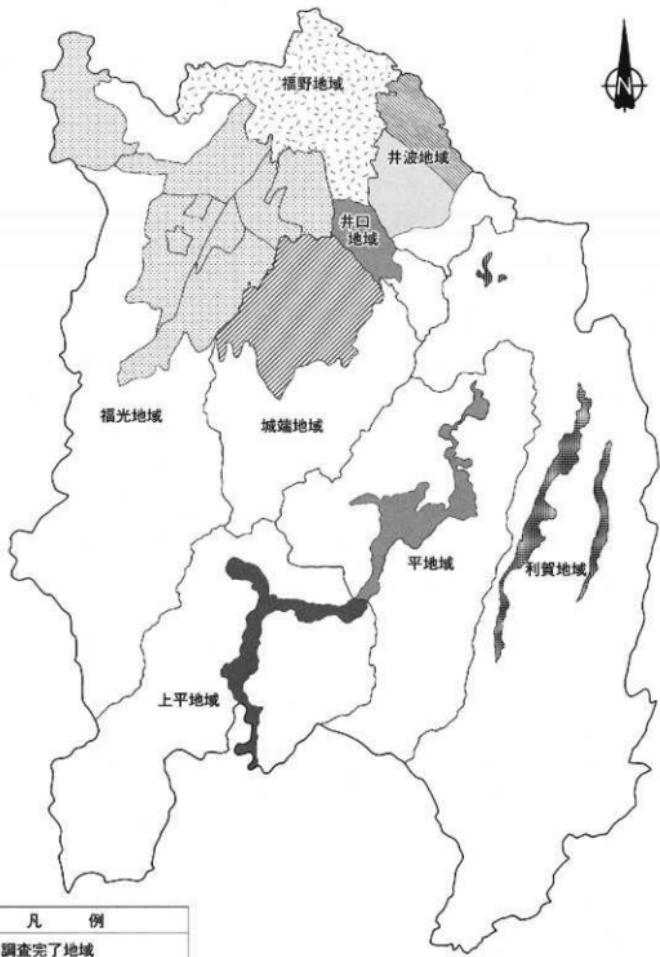
調査は、南砺市が国庫補助を受け、富山大学考古学研究室の指導・協力を得て進めることとした。現地踏査は春期・秋期ともに井波・南山見・高瀬地区で行った。踏査の際は、1/2,500もしくは1/5,000の地形図を持参し、田畠一枚一枚をくまなく踏査し、土器、石器等の遺物を探集して、採集地点を図面に記録した。探集した遺物は、洗浄後採集地点を注記し、実測作業をおこなった。その後、遺物の散布状況、地形、伝承等も加味しつつ、包蔵地の範囲を決定した。

今年度の調査対象地において、調査実施までに確認している周知の包蔵地及び調査履歴については、第1表のとおりである。

（宮崎順一郎）

第1表 調査区内の埋蔵文化財包藏地

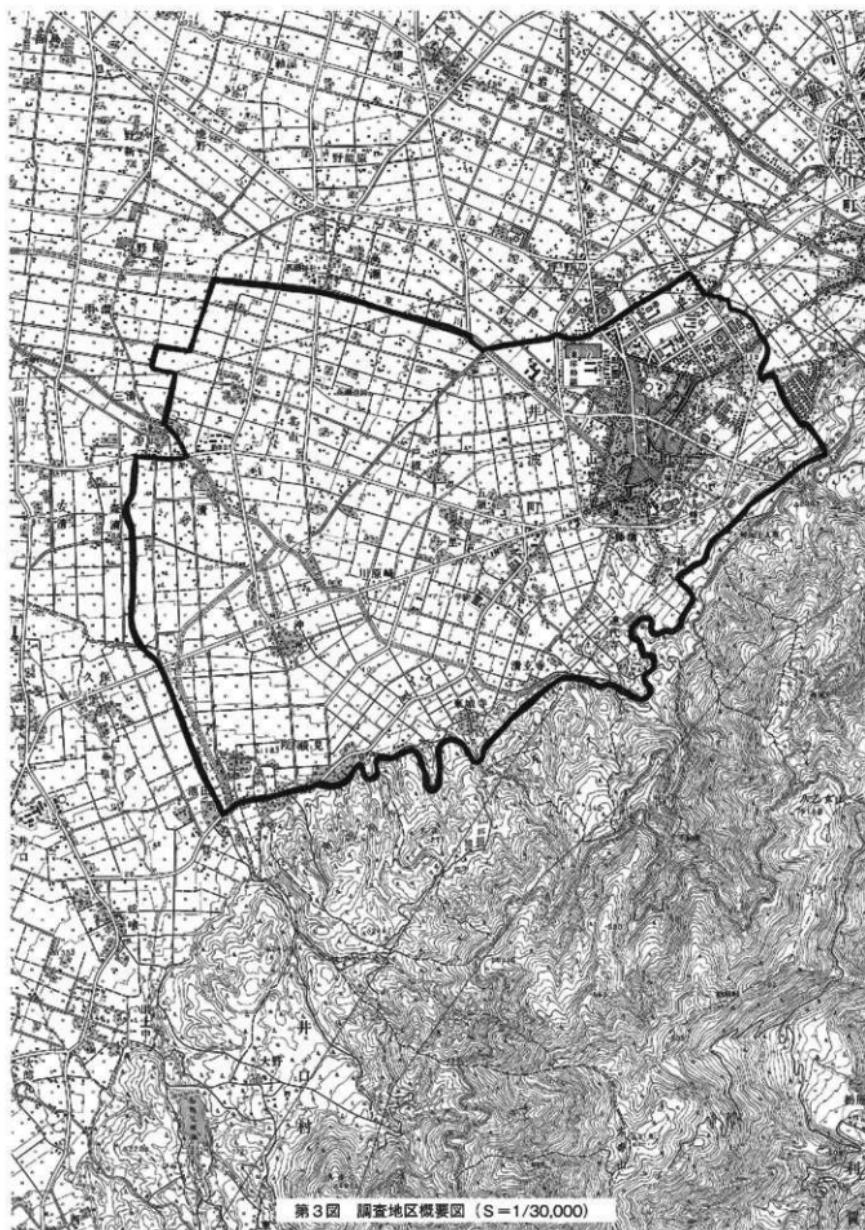
遺跡名	ふりがな	所在地	主な時代	種別	調査履歴	調査原因	備考	第4回目
高瀬遺跡	たかせいせき	高瀬	縄文 弥生 古墳 平安・中世	縄文散布地 弥生散布地 古墳散布地 平安集落	S56 本調査 H6 試掘	は場整備 保育所建設	莊園管理所である 主殿・脇殿や河川 跡・橋跡を確認、 須恵器壺の墨書き 「南方呂」も出土。	1
沖遺跡	おきいせき	沖字名宮	古代	古代散布地				4
戸板遺跡	といたいせき	戸板	古代	古代散布地				5
大宮司円遺跡	だいぐうじでんいせき	高瀬	鍾倉	中世集落				6
高瀬雜食屋遺跡	たかせかまくらやしきあと	高瀬	中世	中世城館				7
院瀬見泷谷遺跡	いざみたきたにいせき	院瀬見 字前田	縄文・古代	縄文散布地 古代散布地				8
院瀬見栗原遺跡	いざみやくはいせき	院瀬見 字東山	縄文	縄文散布地				9
東城寺遺跡	とうじょうじいせき	東城寺 字北浦	縄文・古代	縄文散布地 古代散布地	S52 試掘	は場整備	過去に縄文土器、 須恵器が出土した といわれるが、 S52 調査では何も 確認できず	10
鉢堀山遺跡	せにかめやまいせき	清玄寺	室町	中世墓	S52 本調査 S53 本調査		鉢堀山より壺3個 が出土したという 伝承あり、うち1 個が現存	11
清玄寺跡	せいげんじあと	清玄寺 字袋	中世	近世散布地 中世社寺	S52 試掘			12
連代寺中之島遺跡	れんだいじなかのしまいせき	連代寺	縄文	縄文散布地 弥生散布地 古代散布地 中世散布地	S52 試掘 S54 試掘	格納庫建設 は場整備		13
山見遺跡	やまみいせき	山見	近世	近世製鉄				14
止観寺跡	しかんじあと	志觀寺 字拂谷	中世	中世社寺			旧「止觀寺跡」	15
井波西別院境内遺跡	いわにべべいんないせき	井波	近世	近世散布地				16
井波跡	いなみじょうあと	井波字 古城跡	中世	中世城館			市指定史跡	17
瑞泉寺瓦窯跡	すいせんごかわらかまあと	井波(今町)	近世	近世窯	骨壺焼成も			18
井波中学校遺跡	いなみちゅうがっこういせき	井波	繩文中	縄文散布地				19



凡　例	
調査完了地域	
地域名	調査期間
福野地域	H7～H9
城端地域	H13～H17
利賀地域	H15
福光地域	H18～H22
井波地域	H22～
未調査地域	
平成23年度調査実施地域	
平成24年度調査予定地域	
平成25年度調査予定地域	

0 10km

第2図 調査地区割図 (S = 1/200,000)



III 調査の概要

1 遺跡と採集遺物

(1) 高瀬遺跡 (第9～12図・図版9～13)

採集した遺物は、須恵器206点、土師器50点、土師質土器3点、陶器22点、瀬戸美濃1点、越中瀬戸2点、瀬戸1点、珠洲焼68点、青磁4点、磁器2点、石器1点、不明2点である。これらのうち、134点を図示した。1～90は須恵器。1～21は杯蓋。1は円盤形のつまみがつく天井部片。つまみの高さ7mm、直径は1.4cm。胎土は密で砂粒が多く混ざる。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

2は円盤形のつまみ部片。直径2cm、高さ7mm。内外面にナデ調整を施す。胎土は密で、直径1mmの砂粒を少量含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

3は宝珠形のつまみ部片。直径は約2cm、高さは約1cmを測る。外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

4は宝珠形のつまみ部片。胎土は密で、直径1mm以下の砂粒を含む。色調は青灰色を呈する。焼成は良好。

5は天井部片。内面にナデ調整を施す。つまみを欠く。胎土は密で約1mm～2mmの砂粒を含む。色調は褐灰色を呈する。焼成は良好。

6は口縁部片。口径は約11cmを測る。口唇端部は内面向に折り出げる。内外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は青灰色を呈する。焼成は良好。

7は天井部片。頂部外面にヘラケズリを施す。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

8は天井部片。外面、内面ともにヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

9は天井部片。外面にヘラケズリ調整を施す。胎土は密である。色調は青灰色を呈する。焼成は良好。

10は口縁部片。口唇端部は下方へ短く屈曲している。胎土は密である。色調は外面が青灰色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好。

11は口縁部片。口径は13cmを測る。内外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

12は口縁部片。内外面ともにヨコナデ調整を施す。口唇端部を欠く。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

13は口縁部片。内外面にロクロナデ調整を施す。口唇端部を欠く。胎土は密である。色調は青灰色だが、口縁端部は黒色を呈する。焼成は良好。

14は口縁部片。内面にヨコナデ調整を施し、口唇端部は短く屈曲する。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

15は口縁部片。内外面ともにヨコナデ調整を施す。三角状の口唇端部をもつ。胎土は密で約1mmの砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

16は口縁部片。内面にロクロナデ調整を施す。口唇端部は下方へ短く屈曲している。胎土は密である。色調はにぶい黄橙色を呈する。焼成は生焼けである。

17は口縁部片。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

18は口縁部片。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

19は口縁部片。内外面ともにナデ調整を施す。口唇端部は内面に肥厚する。胎土は密である。色調は青白色を呈する。焼成は良好。

20は口縁部片。胎土は密である。色調は外面が青灰色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好。

21は口縁部片。外面、内面ともにヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は外面が灰色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好。

22~40は杯身の口縁部片。22は内外面ともにヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

23は内外面ともにナデ調整。胎土は密である。色調は外面が青黒色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好。

24は内外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は外面が暗灰色、内面が青灰色を呈する。焼成は良好。

25は内外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密で、直径1mmの砂粒を少量含む。色調は外面上部が暗青灰色、下部が灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

26は外面にはヨコナデ調整を施す。胎土は密で1mm程度の砂粒を含む。色調は灰色を呈す。焼成は良好。

27は外面、内面ともにヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰白色で、外面上部約1cmの幅で暗灰色を呈する。焼成は良好。

28は内外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は青灰色を呈する。焼成は良好。

29は外面、内面ともにロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

30は内外面ともにヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰白色で外面上端が暗灰色を呈する。焼成は良好。

31は外面の風化が著しく、一部にヨコナデ調整が残る。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

32は外面にナデ、内面にヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

33は内外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は外面上部が上から灰オーリーブ色、暗灰色、外面上部が灰白色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好。

34は内外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は外面が暗青灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

35は内外面にヨコナデを施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

36は外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は白褐色を呈する。焼成は良好。

37は内面にヨコナデ調整を施す。胎土は粗放である。色調は灰白色を呈する。焼成はやや軟質。

38は外面、内面ともにヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

39は内外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は外面上部が黄灰色、外下部が灰白色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好。

40は口縁部を外方につまみ出している。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

41~47は高台のつかない杯A。41は内外面にナデ調整を施す。口径は約10.5cm、底径は約7cmを測る。胎土は密である。色調は暗青灰色を呈する。焼成は良好。

42は底部片。底径は5.9cmを測る。内面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

43は底部片。底径は約5.4cmを測る。内外面ともにロクロナデ調整を施す。胎土は密で約1mm~2mmの砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

44は底部片。底径は6cmを測る。内面の中央にはひび割れがあり、底部外面には切り離し痕が残る。体部外面にはロクロナデ調整を施す。胎土は密で2mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

45は底部片。底径は約6cmを測る。底部は平底である。内面にロクロナデ調整を施す。胎土は粗放で、微砂粒を多量に含む。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

46は底部片。胎土は1mm以下の砂粒を多く含む。色調は外底部はオリーブ灰色、体部はにぶい黄褐色を呈する。焼成は軟質。

47は底部片。底径は7.5cmを測る。内外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密で、直径1mmの砂粒を少量含む。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

48~59は高台のつく杯B。48は底部片。底径は約7cmを測る。外面にヘラケズリ調整、内面にナデ調整を施す。胎土は密である。色調は暗青色を呈する。焼成は良好。

49は底部片。底径は約6.5cmを測る。外面にヘラケズリ調整を残す。胎土は密である。色調は暗青灰色を呈する。焼成は良好。

50は底部片。底径は約8cmを測る。内外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は外側が灰白色、内面がにぶい褐色を呈する。焼成は良好。

51は底部片。高台は貼り付けである。胎土は密であり、1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

52は底部片。高台は貼り付けである。内外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は外面体部が灰褐色、底部が灰白色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

53は底部片。底径は約7cmを測る。高台は貼り付けである。内外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は外面が黒灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

54は底部片。底径は7.7cmを測る。内外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密で直径1mm以下の砂粒を少量含む。色調は外灰色を呈する。焼成は良好。

55は底部片。貼り付け高台で、外面はヨコナデとケズリの調整が残る。胎土は密であり1mm以下の砂粒が混ざる。焼成は良好。

56は底部片。底径は約9.4cmを測る。内面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は体部が黒褐色、底部が灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

57は底部片。底径は約6.4cmを測る。内外面ともにナデ調整を施す。底部外面中央に「×」状のヘラ記号を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

58は底部片。底径は推定約4cmを測る。高台は貼り付け高台である。外面、内面ともにロクロナデ調整を施す。底部外面中央に傷状の痕跡があり、ヘラ記号の可能性がある。胎土は密である。色調は青灰色を呈する。焼成は良好。

59は底部片。底径は約11.6cmを測る。高台は貼り付け高台である。内外面ともにヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

60~68は壺類。60は口縁部片。内外面ともにヨコナデ調整を施す。口縁部は端部を外側につまみ出し、上部をへこませる。胎土は密である。色調は外面が灰色、内面は暗灰黄色、断面は灰白色を呈する。焼成は良好。

61は口縁部片。口縁端部は水平な面をなす。外面にヨコナデ調整を施す。表面には自然釉がかかる。胎土は密で約1mmの砂粒を含む。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

62は口縁部片。内外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰白色を呈し、表面が褐色となる。焼成はやや軟質。

63は口縁部片。口縁部は端部を外側につまみ出しへこませている。外面にヨコナデ調整を施す。口唇部の一

部に自然釉を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

64は肩部片。外面にロクロナデ調整と沈線が2条、内面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は外面が黒色、内面が青灰色を呈する。焼成は良好。

65は体部片。外面にヨコナデ調整を施す。内面には自然釉がかかる。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

66は底部片。底径は約5cmを測る。高台は削り出し高台である。外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密で約1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

67は底部片。底径は5.4cmを測る。外底面にロクロナデ調整を施す。胎土はやや粗い。色調は白灰色を呈する。焼成は良好。

68は短頸壺の体部中ほどの破片で把手が残る。外面に粘土貼り付け痕が残り、内面にナデ調整を施す。胎土は密で、直径1mm以下の砂粒を少量含む。色調は外面が灰色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好。

69~90は壺あるいは壺の体部片。69は外面に平行タタキ目およびハケメを施す。胎土は密である。色調は外面が暗灰色、内面は灰色、断面は灰白色を呈する。焼成は良好。

70は外面に平行タタキ目およびハケメ、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

71は外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

72は外面にタタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。色調は外面が青灰色、内面が白褐色を呈する。焼成は良好。

73は外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密である。色調は外面が灰褐色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好。

74は外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密である。色調は外面が暗緑灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

75は外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。色調は外面が灰黒色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好。

76は外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密である。色調は内面上部は褐灰色、下部は灰色、外面は灰色を呈する。焼成は良好。

77は外面に格子目状タタキ目、その上から三ヶ所に横方向のハケメ、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

78は外面に平行タタキ目を施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

79は外面に平行タタキ目を施す。胎土はやや粗放で微砂粒を多量に含む。色調は青灰色で、断面中心は赤灰色を呈する。焼成は良好。

80は外面に平行タタキ目とカキ目、内面には同心円状の当て具痕を残す。外面には自然釉がかかる。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

81は外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密で、直径1mm以下の砂粒を少量含む。色調は外面が灰黄褐色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

82は外面に平行タタキ目を施しタタキ面に板の木目が浮き出ている。内面は同心円状の当て具痕が残る。胎土は密であり、2mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

83は外面に平行タタキ目、内面は同心円状の当て具痕が残る。胎土は密である。色調は外面が明青灰色、内面が青灰色を呈する。焼成は良好。

84は外面に平行タタキ目とカキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。外面には自然釉がかかる。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

85は外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密で、直径1mm以下の砂粒を少量含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

86は外面に平行タタキ目とカキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密である。色調は外面が青灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

87は外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密で約1mm～1mmの砂粒を含む。色調は表面は灰色、断面は灰白色を呈する。焼成は良好。

88は外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。色調は外面が灰色、内面が黒灰色を呈する。焼成は良好。

89は外面に格子タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。外面、内面ともに自然釉がかかる。胎土は密である。色調は外面が黒褐色、内面が灰黄色を呈する。焼成は良好。

90は外面に平行タタキ目とカキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

91～99は土師器。91は中世土師器皿の口縁部。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。色調は黄褐色を呈する。焼成は良好。

92は古代土師器杯の底部。底径は約5cmを測る。底部は平底である。胎土は精良で小砂粒を含む。色調は赤褐色を呈する。焼成は良好。

93は中世土師器皿の底部。底径は約5cmを測る。外面にヘラケズリ調整を施す。胎土は密である。色調は赤褐色を呈する。焼成は良好。

94は土師器壺の口縁部片。胎土は精良である。色調はにぶい橙色を呈する。焼成は良好。

95は土師器の甕の口縁部片。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。色調は黄橙色を呈する。焼成は良好。

96は土師器壺の口縁部片。口唇端部を内側にまるく巻き込む。胎土は密である。色調は黄褐色を呈する。焼成は良好。

97は土師器壺の口縁部片。胎土は密である。色調はにぶい黄橙色を呈する。焼成は良好。

98は土師器壺の口縁部片。胎土は密で、直径2mm以下の砂粒を含む。色調はにぶい黄橙色を呈する。焼成は良好。

99は土師器甕の体部片。外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕が残る。胎土は粗放で、小砂粒を多量に含む。色調は橙色を呈する。焼成は良好。

100～104は陶磁器。100は青磁碗の口縁部片。胎土は密である。色調は断面は灰色を呈し、内外面に明緑灰色の釉を施す。焼成は良好。

101は青磁碗の体部片。胎土は密である。色調は断面は灰色で、内外面に灰オリーブの釉を施す。焼成は良好。

102は青磁壺の体部片。内外面に緑灰色の釉を施す。胎土は密である。色調は断面が灰白色を呈する。焼成は良好。

103は瀬戸美濃の鉢あるいは碗の体部片。水平方向に段がある。内外面にオリーブ黄色の釉を施す。胎土は密である。色調は断面が灰白色を呈する。焼成は良好。

104は越中瀬戸の皿の底部片。底径は6cmを測る。高台は削り出し輪高台である。内面ににぶい赤褐色の釉を施す。胎土は密である。色調は外面がにぶい黄橙色、底部内面がにぶい黄橙色、その周りがにぶい赤褐色を呈する。焼成は良好。

105は磨製石斧。形態は乳棒状である。長さ約14cm、最大幅約4cm、刃部幅約2.5cm、重さ272gである。なお本資料は、過去に高瀬遺跡内で採集され分布調査時に寄贈を受けたものである。

106~134は珠洲焼。106は壺の口縁部片。口唇端部に外傾する面をつくる。外面に強いヨコナデを残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

107は壺の頭部片。内外面ともに強いヨコナデ調整を施す。胎土は密で、約1mmの砂粒を含む。色調は表面は灰色、断面は灰白色を呈する。焼成は良好。

108~125は壺あるいは壺の体部片。108は外面に平行タタキ目、内面にヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。内面が平坦となっているため砥石に転用された可能性がある。焼成は良好。

109は外面に平行タタキ目を残す。胎土は密である。色調は外面が褐色色、内面は灰色を呈する。焼成は良好。

110は外側に平行タタキ目を施す。胎土は密で約1mmの砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

111は外面に平行タタキ目を施す。胎土は密である。色調は青黒色を呈する。焼成は良好。

112は外面に平行タタキ目を施す。胎土は密である。色調は外面が暗灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

113は外面に平行タタキ目を施す。胎土は密で約1mmの砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

114は外面に平行タタキ目を施す。胎土は密である。色調は灰白色を呈し、外面に自然釉がかかる。焼成は良好。

115は外面には平行タタキ目を施す。胎土は密で、1mm以下の砂粒を含む。色調は内面は灰色、外側は黒灰色を呈する。焼成は良好。

116は外面に平行タタキ目、内面に縦方向のナデ調整を施す。胎土は密で小砂粒を含む。色調は外面が暗灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

117は外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。外側表面に自然釉がかかる。胎土は密で約1mmの砂粒を含む。色調は表面は灰色、断面は赤灰色を呈する。焼成は良好。

118は外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密である。色調は灰褐色を呈する。焼成は良好。

119は外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

120は外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密で直径1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

121は外面に平行タタキ目、内面に円形の押圧具痕を残す。胎土は密で約1mmの砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

122は外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密である。色調は外面が灰色、内面が灰黄色を呈する。焼成は良好。

123は外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

124は外面に平行タタキ目、内面には押圧具痕を残し、縦方向に1.5cm程度の亀裂が生じている。胎土は砂粒を多く含む。色調は外面が灰色、内面は白灰色を呈する。

125は外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密で直径1mm以下の砂粒を少量含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

126は壺の底部である。底径は10.9cmを測る。体部外面にヨコナデ調整、内面上部にヨコナデ調整、下部に直線ナデ調整を施す。底部に静止糸切り痕を残す。胎土は密で直径1mm以下の砂粒を少量含む。色調は灰色を

呈する。焼成は良好。

127～131は鉢および揃り鉢。127は口縁部片。外面、内面ともにロクロナデ調整を施す。胎土は精良で小砂粒を含む。色調は表面が暗灰色、断面は灰色を呈する。焼成は良好。

128は口縁部片。内面にヨコナデ調整を施す。胎土は粗放で微砂粒を多量に含む。色調は外面が灰白色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

129は口縁部片。外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は外面が灰白色、内面が灰黒色を呈する。焼成は良好。

130は揃り鉢の体部片。外面にヨコナデ調整、内面に約2mm幅で9条の卸目をつける。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

131は揃り鉢の体部片。内面に卸目をつける。胎土は密である。色調は青白色を呈する。焼成は良好。

132は揃り鉢の体部片。内面には卸目が見られる。胎土は密である。色調は外面が黄灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

133は揃り鉢の体部片。内面に卸目をつける。胎土は密である。色調は灰褐色を呈する。焼成は良好。

134は揃り鉢の体部片。外面にヨコナデ調整、内面上部にヨコナデ調整、下部に卸目をつける。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

(2) 三清東遺跡 (第13図・図版13)

採集した遺物は、須恵器11点、土師器12点、陶器8点、越中瀬戸1点、唐津1点、磁器2点、白磁1点、珠洲焼8点、石1点である。これらのうち、14点を図示した。

135は須恵器杯の口縁部片。内外面ともにヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

136は須恵器壺の体部片。内面にヨコナデ調整を施す。外面上部に3条の凹線をめぐらす。胎土は密である。色調は外面が灰色、内面が灰白色を呈する。焼成は良好。

137は須恵器壺の体部片。外面に格子状のタタキ目、内面に同心円状の當て具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

138は須恵器壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に同心円状の當て具痕を残す。胎土は密である。色調は外面が灰色、内面が青灰色を呈する。焼成は良好。

139は須恵器壺の底部片。板状の底部に体部を接合した痕跡が明瞭である。底部外面に糸切り痕を残す。胎土は密である。色調は外面が灰白色、内面が青灰色を呈する。焼成は良好。

140は土師器の皿の口縁部片。内外面ともにヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は橙色を呈する。焼成は良好。

141は土師器の碗の口縁部片。内外面ともにヨコナデ調整を施す。胎土密である。色調は口縁部はにぶい橙色で、体部は褐灰色である。焼成は良好。

142は中世土師器皿の口縁部片。胎土は密である。色調は橙色を呈す。焼成は良好。

143は中世土師器皿の柱状高台片。底径は約4cmを測る。外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。色調は外面が黄土色、内面が黒黄色を呈する。焼成は良好。

144は中世白磁碗の底部片。底径は8cmを測る。内面に白色の釉を施す。胎土は密である。色調は白色を呈する。焼成は良好。

145は近世陶器碗の底部片。底径は約5cmを測る。内外面に釉薬、外面に縁軸を施す。胎土は密である。色調は白褐色を呈する。焼成は良好。

146～148は珠洲焼。146は壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に円形の押圧具痕を残す。胎土は密で約3mmの砂粒を含む。色調は青灰色を呈する。焼成は良好。

147は壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面にナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

148は壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密で直径1mm以下の砂粒を少量含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

(3) 北市遺跡（第13図・図版14）

採集した遺物は、須恵器4点、陶器（瀬戸か）1点、珠洲焼3点である。これらのうち、2点を図示した。

149は須恵器杯Aの底部片。内面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

150は珠洲焼の壺あるいは壺の体部片。外面に平行タタキ目を施す。内面上部に剥離が見られるため、調整は不明である。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

(4) 沖遺跡（第13図・図版14）

採集した遺物は、図示した須恵器1点である。

151は須恵器の壺の体部片。外面には平行タタキ目を施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

(5) 戸板遺跡（第13図・図版14）

採集した遺物は、須恵器1点、土師器35点、土師質土器1点、陶器2点、越中瀬戸1点、磁器3点である。これらのうち、2点を図示した。

152は須恵器杯Bの底部片。底径5.5cmを測る。内外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密で、直径2mmの砂粒を含む。色調は外面部が暗青灰色、底部が青灰色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

153は中世土師器皿の底部片。底径は約4.6cmを測る。底面に回転糸切り痕が残る。胎土は密で直径2mm以下の砂粒を含む。色調は橙色を呈する。焼成は良好。

(6) 今回の調査地域には、上記5遺跡の他に、大宮司田遺跡（第4図6）、高瀬鎌倉屋敷遺跡（7）、院瀬見滝谷遺跡（8）、院瀬見薬師遺跡（9）、東城寺遺跡（10）、錢堀山遺跡（11）、清玄寺跡（12）、連代寺中之鳥遺跡（13）、山見遺跡（14）、止觀寺跡（15）、井波西別院境内遺跡（16）、井波城跡（17）、瑞泉寺瓦窯跡（18）、井波中学校遺跡（19）が所在する。今回の調査では、清玄寺跡周辺において磁器片が採取された他は遺物は採集されていない。

(7) その他の採集遺物（第13図・図版14）

遺跡範囲外の採集品についても、将来的な遺跡発見の可能性を高めるためにすべての採集地点を記録している。そのうち9点を図示した。

154は須恵器杯の口縁部片。外面、内面ともにロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰黄色で、内面上部約1cmは灰白色を呈する。焼成は良好。

155は須恵器杯の口縁部片。内外面にヨコナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

156は須恵器壺の体部片。外面にカキ目、内面にロクロナデ調整を施す。胎土は密である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

157は須恵器壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密である。色調は黒褐色を呈する。焼成は良好。

158は土師器皿の口縁部片。胎土は密である。色調はぶい橙色を呈する。焼成は良好である。

159は珠洲焼の壺あるいは壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面にナデと押圧具痕が残る。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

160は珠洲焼壺の体部片。外面には平行タタキ目、内面にはナデ調整を施す。胎土は密であり1mm以下の砂粒を含む。色調は外面が暗灰色、内面は灰色を呈する。焼成は良好。

161は珠洲焼壺鉢の口縁部片。内外面ともにヨコナデ調整を施す。口縁部は端部を外側につまみ出し頂部をへこませている。胎土は密である。色調は外面は暗灰色、内面は灰色を呈する。焼成は良好。

162は珠洲焼壺鉢の体部片。内外面にロクロナデ調整を施す。内面には1.4cm幅で7条の卸目をつける。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

(金印朋子、小谷望有季、清水俊輝、寸田彩加、山下大希、山場愛弓、次山 淳)

2 遺物の散布状況

今年度の調査で採集した遺物の総数は、春期607点、秋期12点の計619点である。これらの分布状況を時期別に大別、集計した。1辺125mの方眼を設け、方眼1つを1ブロックとして、ブロック単位で採集遺物の点数を示すこととする。

各時期の総点数は、縄文・弥生・古墳7点、古代299点、中世137点、近世以降158点、現代および時期不明18点である。

(1) 縄文・弥生・古墳時代の遺物散布状況（第5図）

縄文・弥生・古墳時代の遺物は、磨製石斧1点、土師器6点を4ブロックから採集、および寄贈を受けた。いずれも、高瀬遺跡の範囲内に含まれる。

(2) 古代の遺物散布状況（第6図）

古代の遺物は、須恵器237点、土師器62点を83ブロックから採集した。高瀬遺跡、三清東遺跡、戸板遺跡、北市遺跡に分布が集中する。高瀬遺跡では、石仏地区と穴田地区および大門川に接する付近に集中した散布がみられ、特に石仏地区の北西地域では49点・69点採取されたブロックがある。また、遺跡の範囲外であるが、高瀬遺跡の南方、西大谷川右岸地域および、沖遺跡の西南方、院瀬見地域にも散布地点が認められる。

(3) 中世の遺物散布状況（第7図）

中世の遺物は、土師器30点、珠洲焼94点、陶器6点（瀬戸2、瀬戸美濃3を含む）、青磁6点、白磁1点を77ブロックから採取した。古代の遺物と同様に、高瀬遺跡、三清東遺跡、戸板遺跡、北市遺跡に分布が集中し、遺跡の範囲外であるが、高瀬遺跡の南方、西大谷川右岸地域および、沖遺跡の西南方、院瀬見地域にも散布地点が認められる。また、南山見地区の清玄寺・連代寺地区に散布が認められるようになる。

(4) 近世以降の遺物分散状況（第8図）

近世以降の遺物は、土師質土器8点、陶器71点（越中瀬戸4点、唐津1点を含む）、磁器79点を81ブロックから採集した。高瀬遺跡、戸板遺跡、北市遺跡に散漫な分布が見られる。一方遺跡の範囲外であるが、戸板遺跡の東方、大門川の左岸の山見、五領島地域を中心に現在の市街地にかけて濃密な分布が知られ、近世以降の散布域が東へ移動する様子をうかがうことができる。沖遺跡の西南方、院瀬見地域、および南山見地区の清玄寺・連代寺地区にも継続して散布地点が認められる。

（次山 淳）

3 平成22（2010）年度調査地区との比較

平成22年度調査範囲（山野・高瀬地区）の南に位置する平成23年度調査範囲（4頁第2図参照）は、同じ庄川扇状地の扇頂部にあって、旅川の支流である東大谷川（大門川）と勘行寺川、西大谷川流域の平地に主に立地する。このように地形的にも水系的にも共通する両地区における各段階の遺物散布状況を比べることは、ひとつの地域における長期間の土地利用の変遷を知る上で重要である。以下、昨年度の遺物採集数と比較する形で見ていきたい。なお、井波の現中心をなす瑞泉寺・井波城周辺は、戦略、信仰、交通等の最重要拠点であるが、市街地化がすすみ、採集ポイントが極端に少なかった上での検討をお断りしておく。

縄文時代の遺物は、昨年度は打製石斧3点、今年度は高瀬遺跡内で採集し、寄贈を受けた磨製石斧が1点あるだけで、点数としては少ない。だが、縄文散布地は高瀬遺跡や井波中学校遺跡のほか、八乙女山麓を中心に6箇所ほど確認されている（3頁第1表参照）。

弥生・古墳時代の遺物は、昨年度はなしだが、今年度は高瀬遺跡から弥生土器ないし土師器が6片採集された。そのうち3点には外腹、または内外面に赤色顔料の塗布が認められたが、細片でいずれも編年決め手に欠く。弥生から古墳時代の散布地は他に西大谷川北岸の連代寺中之島遺跡があるだけだが、この時期には主に平地部への遺跡の進出が予想され、河川沿いなどには小規模ながら遺跡が存在することが考えられる。

古代の遺物は、昨年度は須恵器7片、土師器6片が採集されている。うちわけは東大谷川を挟んで高瀬遺跡の北側に隣接する高瀬勘学院遺跡が5片、同じく高瀬釣鐘堀遺跡が2片である。今年度は、高瀬遺跡から須恵器206片、土師器39片が集中して採集された。古代の遺物は、高瀬遺跡に東接する戸板遺跡（須恵器1片、土師器17片）や南西側の三清東遺跡（須恵器11片、土師器6片）、西側の北市遺跡（須恵器4片）でも採集されており、高瀬遺跡を中心とする散布状況が見られる。それとともに、八乙女山麓の連代寺区域にわずか2片だが遺物の散布が見られ、この段階に進出した中世社寺や中世墓との関係が注目される。

中世の遺物は、昨年度は土師器8片、珠洲26片、青磁3片、瀬戸美濃3片が採集されている（このうち半数は高瀬釣鐘堀遺跡とその周辺に偏在）。やはり高瀬遺跡（珠洲68片、青磁4片、瀬戸美濃1片）を中心にして、戸板、三清東、昨年度の高瀬釣鐘堀の各遺跡への散布傾向が見られる。この他、八乙女山麓の連代寺区域にわずか2片だが遺物の散布が見られ、この段階に進出した中世社寺や中世墓との関係が注目される。

近世の遺物は、昨年度は越中瀬戸10片、その他の陶器16片が、高瀬遺跡から離れた北側の区域から数多く採集されている。一方、高瀬、戸板、三清東の各遺跡の採集数は減少し、また八乙女山麓における散布も依然としてまばらである。この段階には、東大谷川よりもさらに北側の開発がすんだものと推測される。

（高橋浩二）

IV まとめ

平成23年度の調査は、井波地域井波地区（井波・北川・藤橋・松島・山見・五領島）、南山見地区（院瀬見・東城寺・清玄寺・連代寺・志觀寺・谷・戸板・川原崎・沖・南山見新）、高瀬地区の一部（高瀬・神子畠・劔学院・北市・三清東）を対象として実施した。調査対象地域には、国および県指定史跡である高瀬遺跡があり、量的に豊富な遺物が採取されることが予想されたが、春期・秋期併せて619点の遺物が採取あるいは寄贈を受け、高瀬遺跡を中心として特に古代から中・近世にかけての濃密な遺物の散布状況が確認された。

こうした成果を受けて、これまでに周知されていた高瀬遺跡および戸板遺跡・沖遺跡の遺跡範囲をさらに広げて認識するとともに、新たに三清東遺跡と北市遺跡を遺物散布地として認知することとなった。高瀬遺跡は、東西約1500m、南北約900m、戸板遺跡は東西約500m、南北約600mの範囲に拡張した。三清東遺跡、北市遺跡では、ともに古代から中・近世にかけての遺物の散布が確認されている。

高瀬遺跡は、1971年の発掘調査でコの字形配置をとる大型掘立柱建物跡が検出され初期莊園の莊所跡と推定される石仏地区と、小規模な掘立柱建物群の検出された穴田地区とからなり、前述のように今回の調査においても両地区に遺物分布の中心があることを確認した。また、大門川に接する地区にも分布の顕著な箇所のあることが今回の調査で知られた。拡張後の遺跡範囲内からは362点の遺物が採集され、その数は調査全体の約58.5%に相当する。

遺跡の範囲外についても、高瀬遺跡の南方、西大谷川右岸地域に古代から中世の遺物が分布し、沖遺跡の西南方、千谷川右岸の院瀬見地域に範囲は限られるものの古代から中・近世にかけて継続的に遺物の散布がみられる箇所のあること、中世から近世にかけて、南山見地区の清玄寺・連代寺地区に散布が認められるようになることなどは注意してよいだろう。また、近世以降の遺物の分布が、戸板遺跡の東方、大門川左岸の山見・五領島地域を中心に現在の市街地との間に顕著になることが知られ、散布域の移動を読み取ることができる。

なお、今回の調査範囲には、周知の遺跡・遺物散布地として、高瀬遺跡、戸板遺跡、北市遺跡、三清東遺跡、沖遺跡の他に、人宮司出遺跡、高瀬鎌倉屋敷遺跡、院瀬見滝谷遺跡、院瀬見薬師遺跡、東城寺遺跡、錢堀山遺跡、清玄寺跡、連代寺中之島遺跡、山見道跡、止觀寺跡、井波西別院境内遺跡、井波城跡、瑞泉寺瓦窯跡、井波中学校遺跡が所在するが、清玄寺跡周辺において磁器片が採取された他は遺物は採集されていない。周知された遺跡・散布地であってもその内容が明らかでないものも少なくなく、今後さらに遺跡のありかたの把握に努めることが必要である。

(次山 淳)

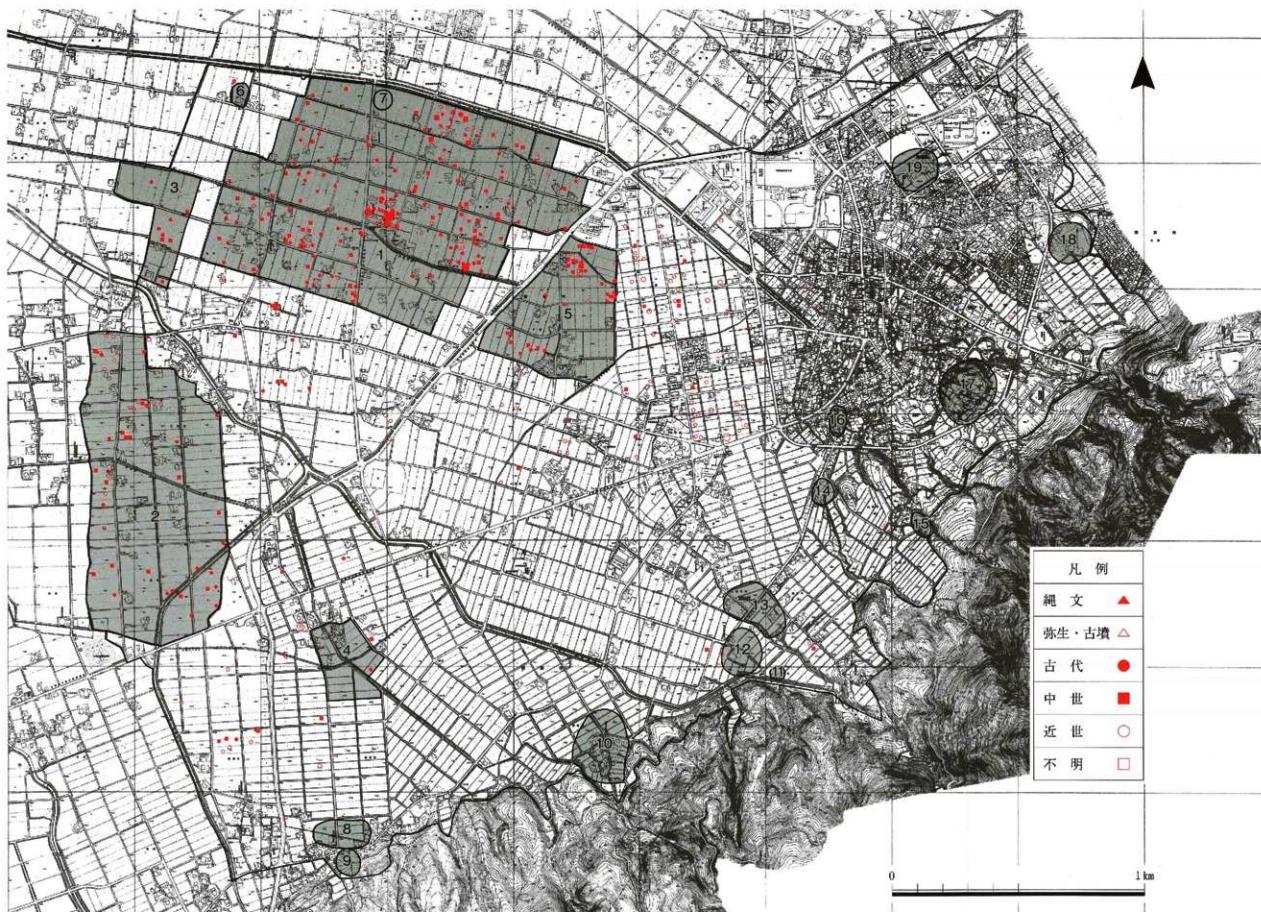
参考文献

- 井波町教育委員会『富山県東砺波郡井波町高瀬遺跡発掘調査報告書』1996
財富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編) - 東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書II -』富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第7集 1996
瀬戸市史編纂委員会『瀬戸市史』陶磁史篇四 愛知県瀬戸市 1993
田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981
富山県教育委員会『富山県埋蔵文化財調査報告書III 井波町高瀬遺跡・入善町じょうべのま遺跡発掘調査報告書』1974
富山大学人文学部考古学研究室『越中上末窯』富山大学考古学研究報告第3号 1989
南砺市教育委員会『南砺市埋蔵文化財分布調査報告書1 - 城端地域5 -』南砺市埋蔵文化財調査報告書9 2006

- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告2－福光地域1－2006年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書17 2007
- 南砺市教育委員会『富山県南砺市宗守遺跡I・久戸遺跡I・梅原胡摩堂遺跡I・神成遺跡IV－県営は場整備事業（担い手育成型）北山町北部地区に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告書(8)－』南砺市埋蔵文化財調査報告書19 2007
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告3－福光地域2－2007年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書22 2008
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告4－福光地域3－2008年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書24 2009
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告5－福光地域4－2009年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書28 2010
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告6－福光地域5・井波地域1－2010年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書29 2011
- 北陸中世考古学研究会『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』第19回北陸中世考古学研究会資料集 2006
- 北陸中世土器研究会『中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器』第5回北陸中世土器研究会 1992
- 北陸中世土器研究会編『中・近世の北陸 考古学が語る社会史』桂書房 1997
- 吉岡康暢『中世須恵器の研究』吉川弘文館 1994

第2表 調査結果一覧（新規、内容変更の遺跡のみ記載）

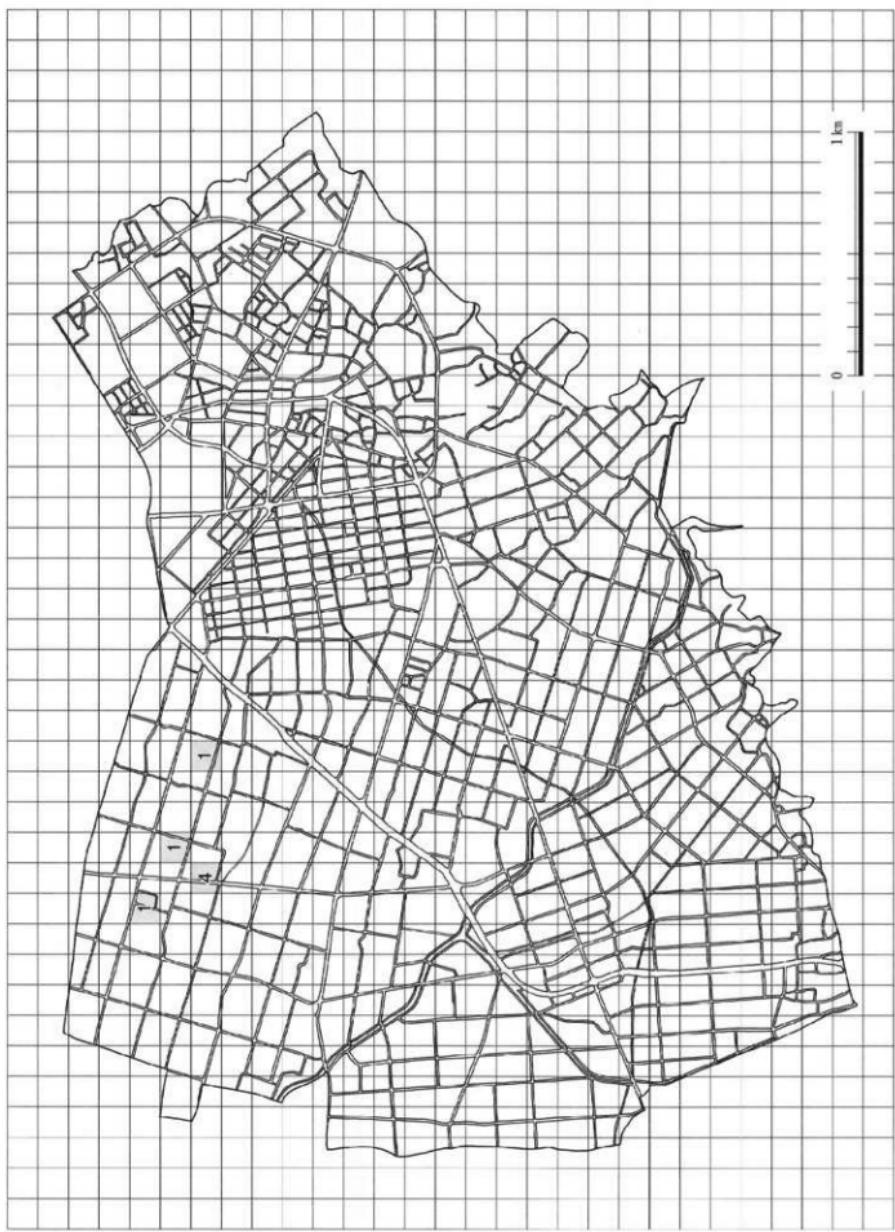
遺跡名	ふりがな	所 在 地	主な時代	種 別	備 考	第4回No
高瀬遺跡	たかせいせき	高瀬	縄文 弥生	縄文散布地 弥生散布地	H23範囲拡大	1
三浦水遺跡	さんきよひがしいせき	三浦東	古代、中世	古代散布地、 中世散布地	H23新規	2
北市遺跡	きたいちいせき	北市	古代、中世	古代散布地、 中世散布地	H23新規	3
沖遺跡	おきいせき	沖字名宮	古代	古代散布地	H23範囲拡大	4
戸板遺跡	といたいせき	戸板	古代	古代散布地	H23範囲拡大	5



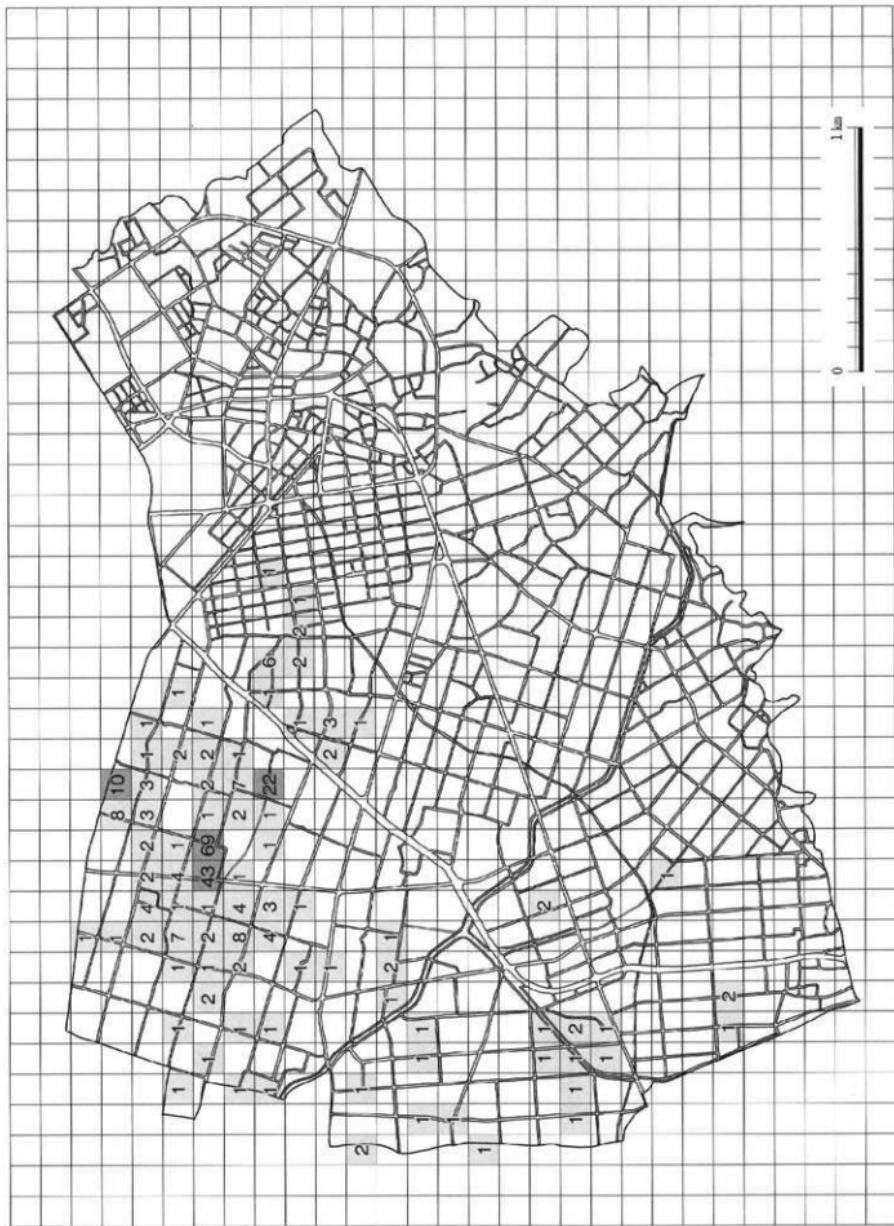
第4図 調査結果概要図 ($S = 1/15,000$)

1. 高瀬遺跡
2. 三清東遺跡
3. 北市遺跡
4. 沖遺跡
5. 戸板遺跡
6. 大宮司田遺跡
7. 高瀬鎌倉屋敷跡
8. 鮎瀬見滝谷遺跡
9. 鮎瀬見薬師遺跡
10. 東城寺遺跡
11. 錢龜山遺跡
12. 清玄寺跡
13. 連代寺中之島遺跡
14. 山見遺跡
15. 止觀寺跡
16. 井波西別院境内遺跡
17. 井波城跡
18. 瑞泉寺瓦窯跡
19. 井波中学校遺跡

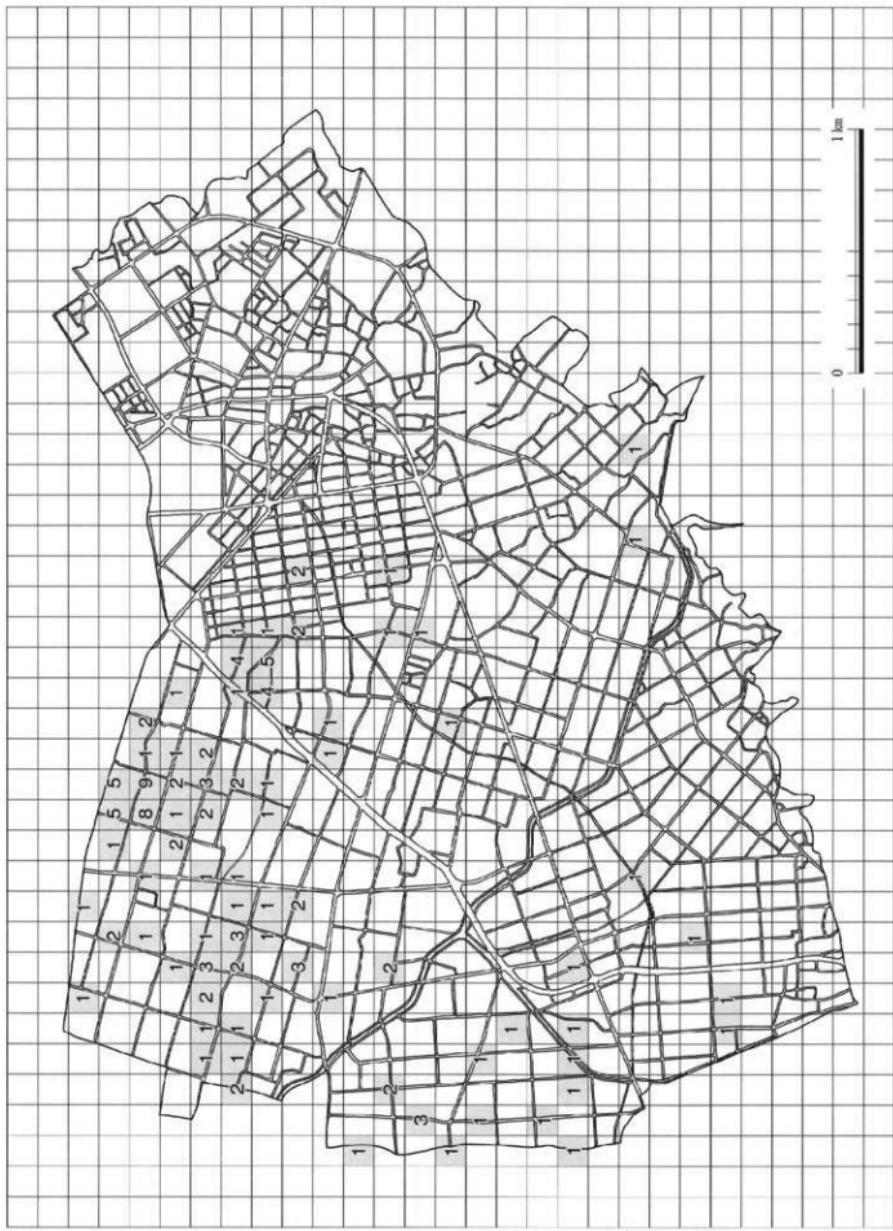
第5図 繩文・弥生～古墳の遺物散布状況（S = 1 /20,000）



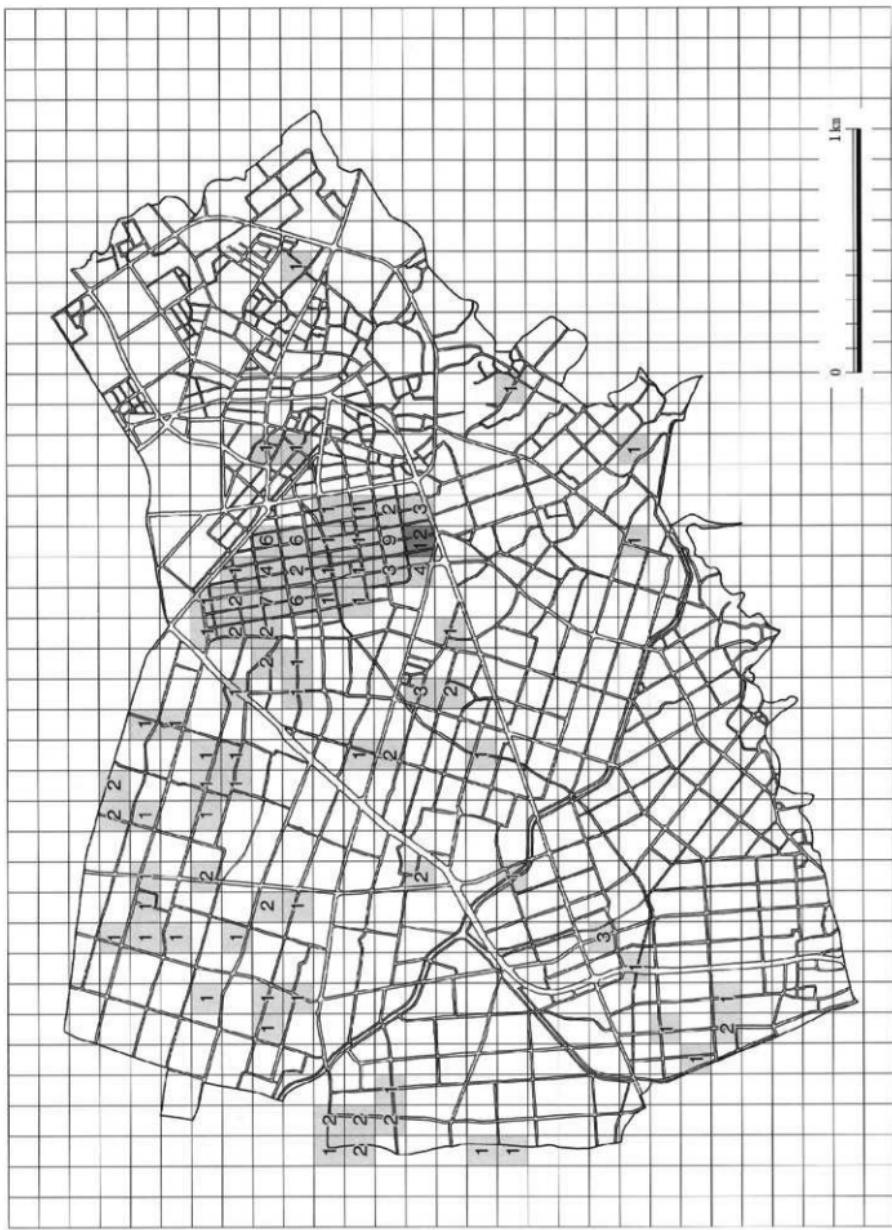
第6図 古代の遺物散布状況 ($S = 1/20,000$)

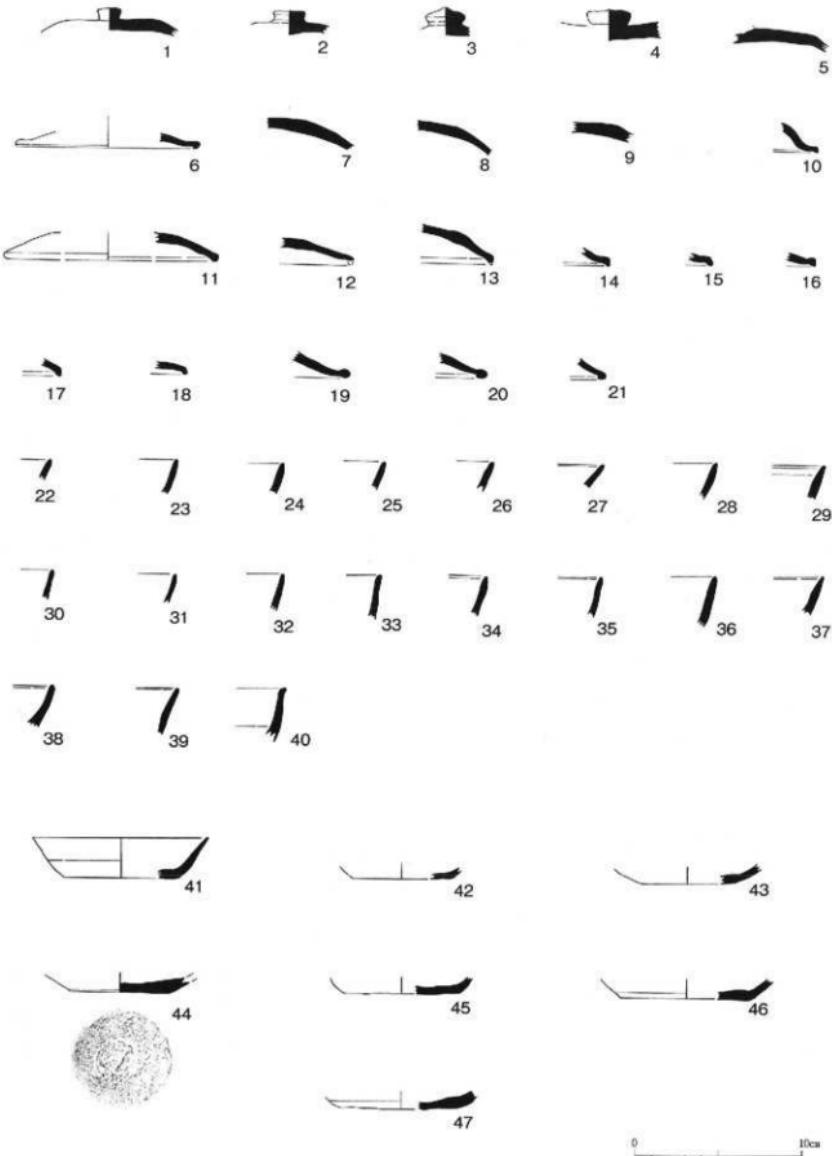


第7図 中世の遺物散布状況 (S = 1 / 20,000)

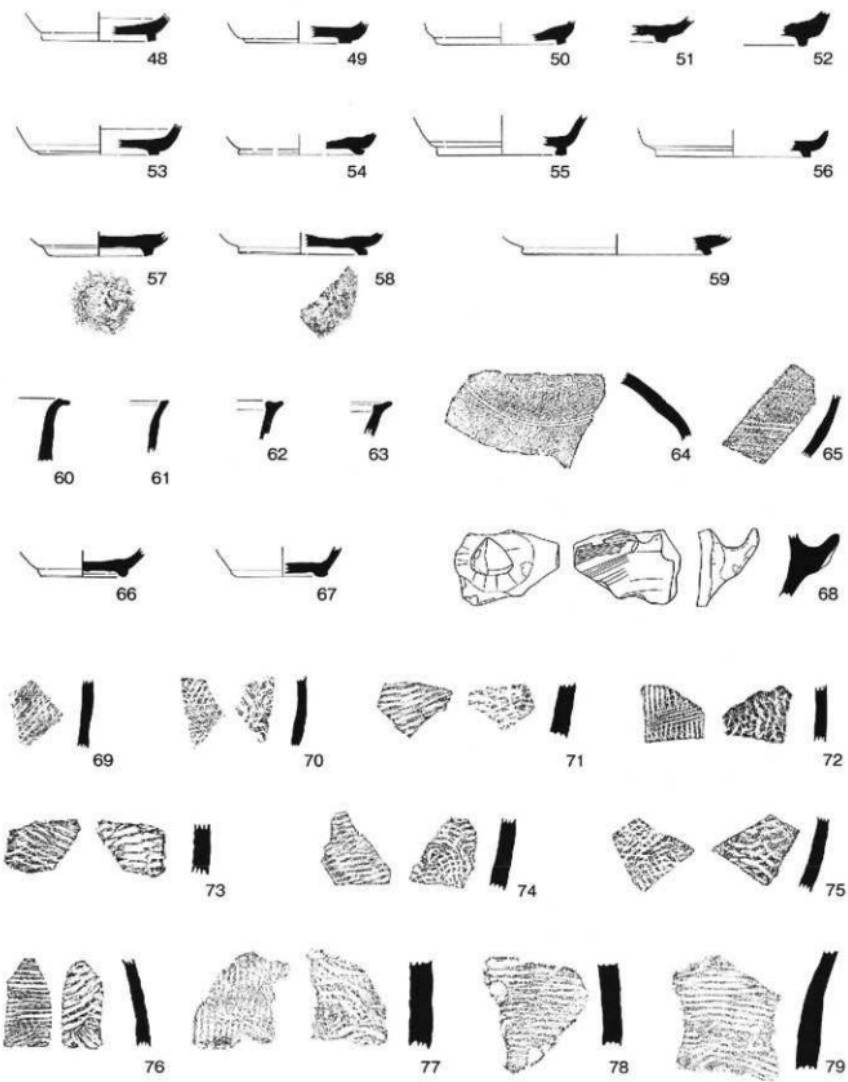


第8図 近世・近代の遺物散布状況 ($S = 1/20,000$)

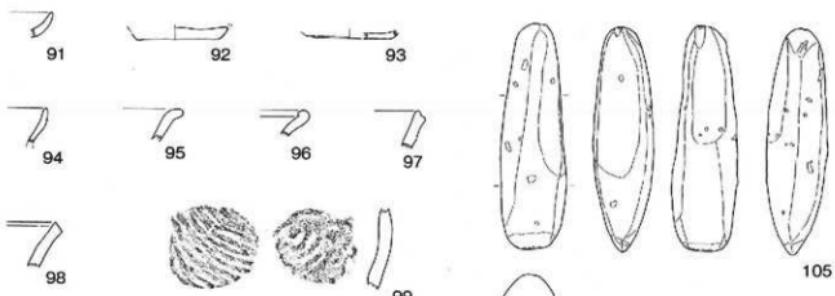
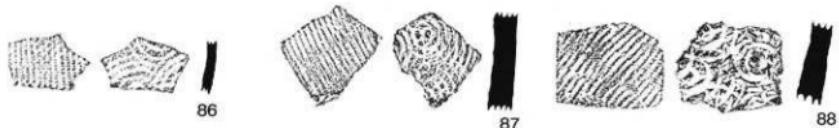




第9図 遺物実測図 (1) 1~47 高瀬遺跡 ($S=1/3$)

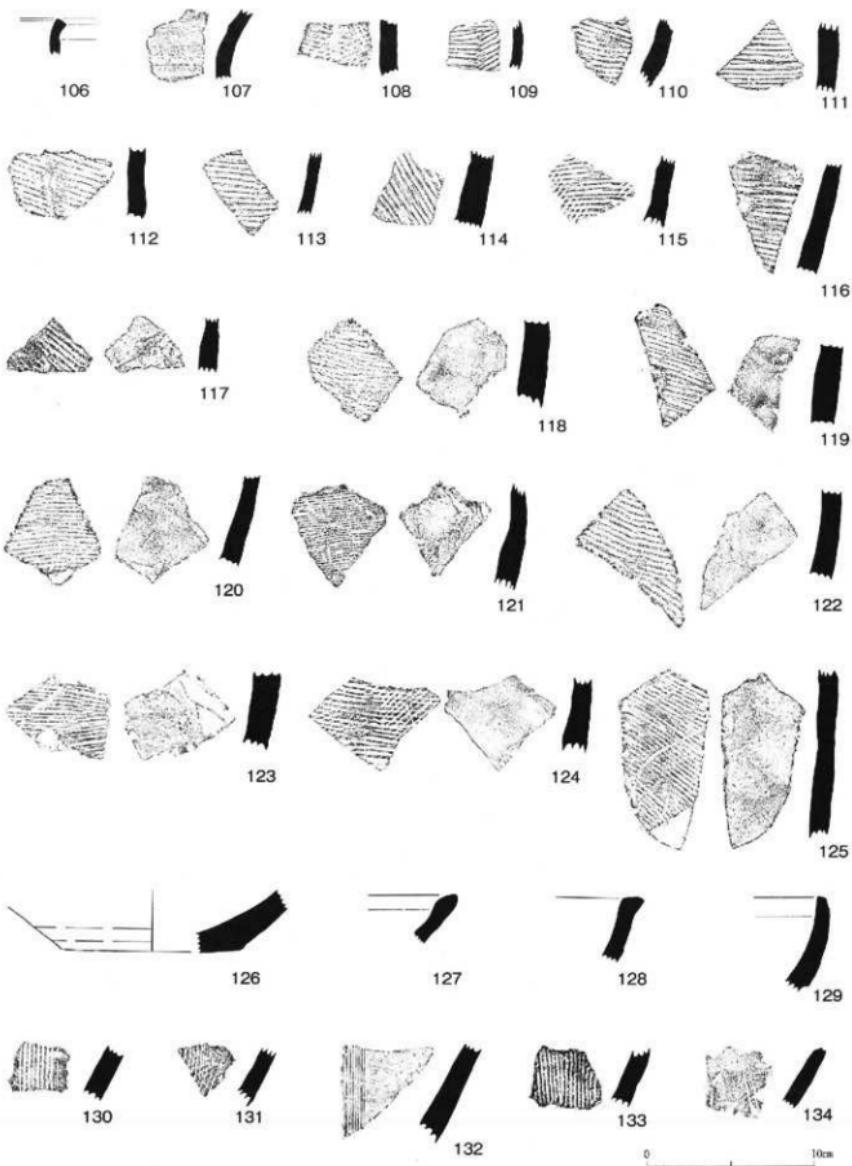


第10図 遺物実測図 (2) 48~79 高瀬遺跡 ($S=1/3$)

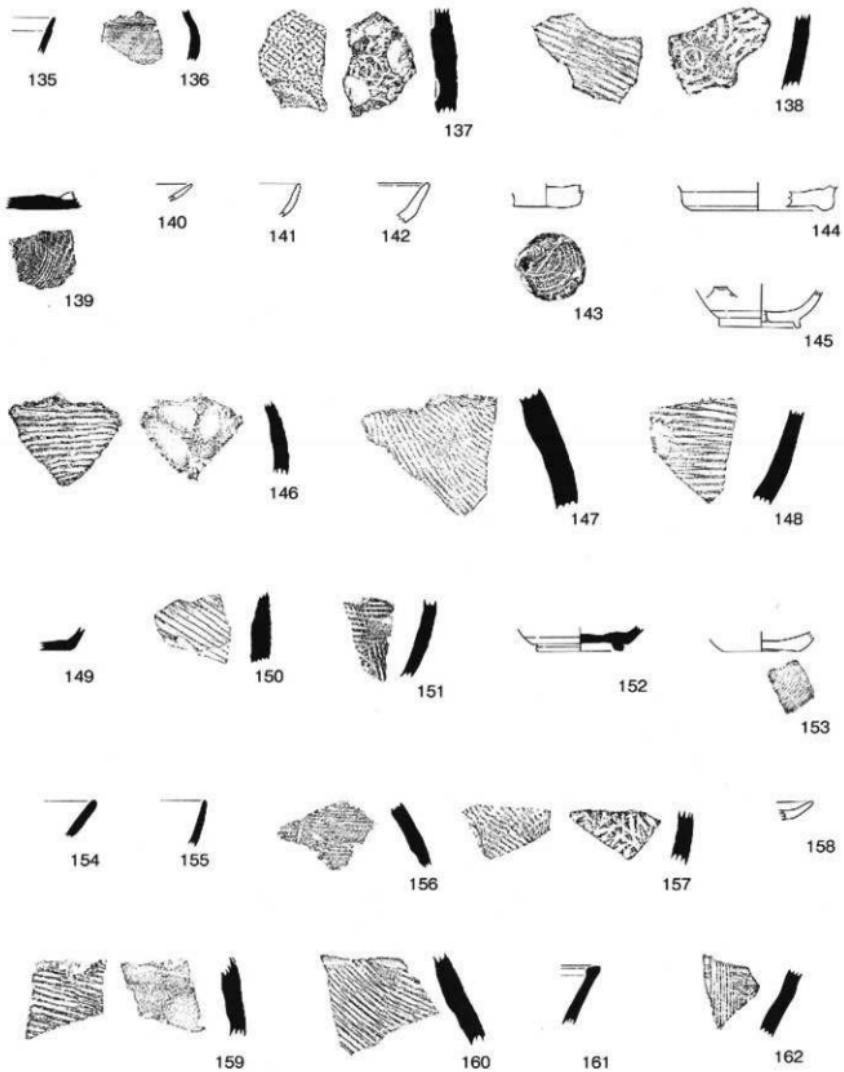


0 1 10cm

第11図 遺物実測図 (3) 80~105 高瀬遺跡 (S = 1/3)



第12図 遺物実測図(4) 106~134 高瀬遺跡 ($S=1/3$)



第13図 遺物実測図(5)
135~148 三清東遺跡 149・150 北市遺跡 151 沖遺跡
152・153 戸板遺跡 154~162 遺跡範囲外出土品 (S=1/3)



1



2



3

図版1 遺跡全景 (1)

1. 高瀬遺跡 2. 三清東遺跡 3. 北市遺跡



4



5



6

図版2 遺跡全景（2）

4. 沖遺跡 5. 戸板遺跡 6. 大宮司田遺跡



図版3 遺跡全景（3）

7. 高瀬鋸倉屋敷跡 8. 院瀬見澣谷遺跡 9. 院瀬見薬師遺跡



10



11



12

図版4 遺跡全景（4）

10. 東城寺遺跡 11. 錢巒山遺跡 12. 清玄寺跡



13.



14.



15.

図版5 遺跡全景（5）

13. 連代寺中之島遺跡 14. 山見遺跡 15. 志觀寺跡



図版6 遺跡全景（6）

16. 井波西別院境内遺跡 17. 井波城跡 18. 瑞泉寺瓦窯跡



19

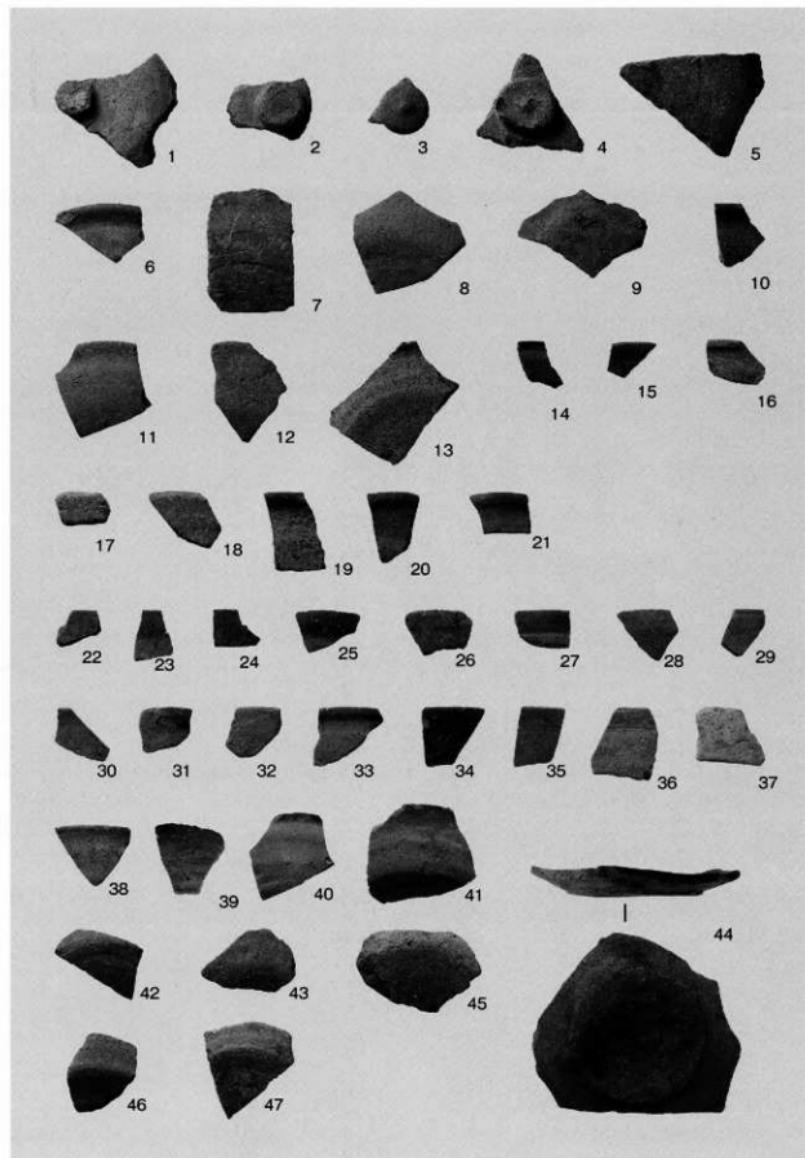


図版7 遺跡全景（7）・調査風景

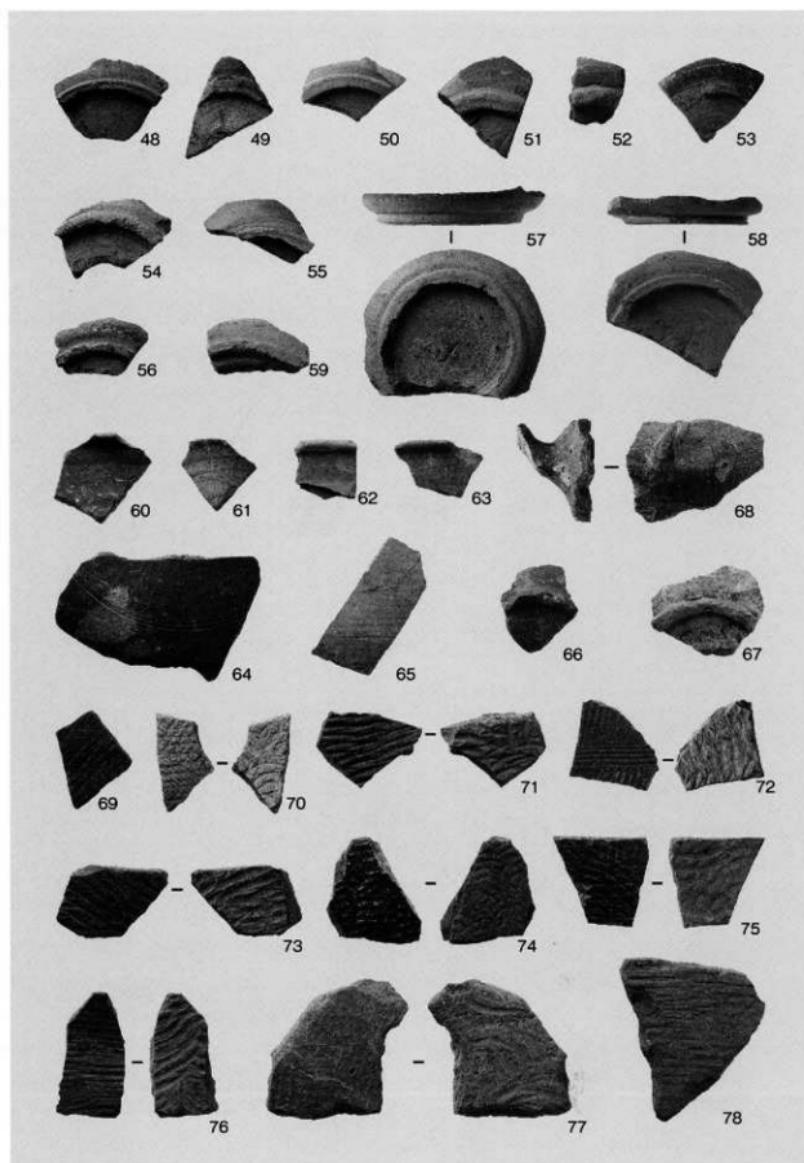
19. 井波中学校遺跡



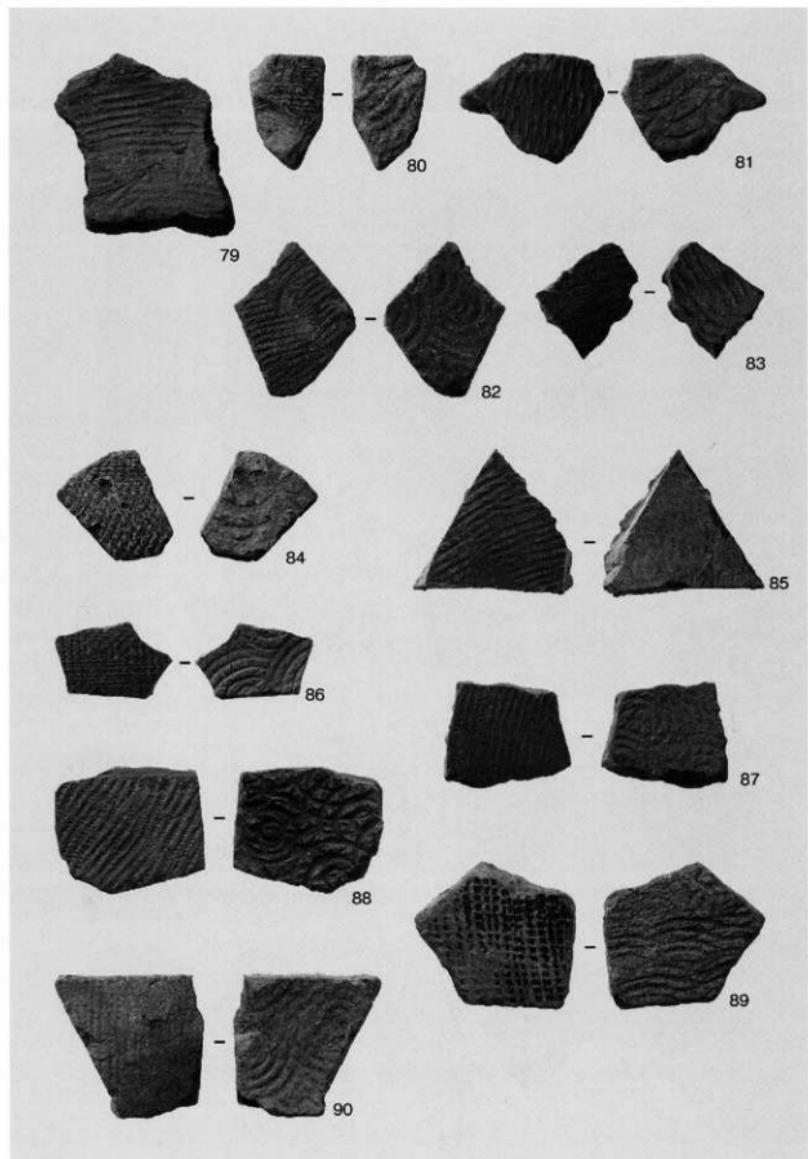
図版8 調査風景



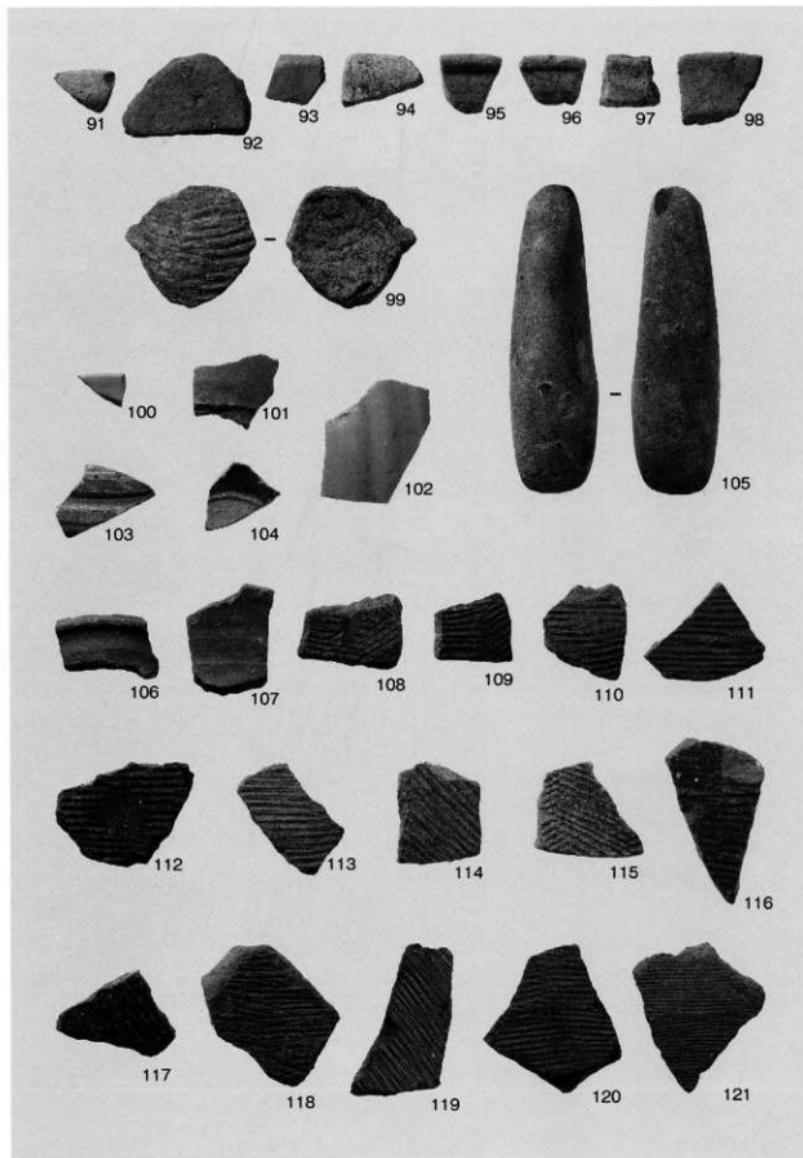
図版9 遺物写真（1）



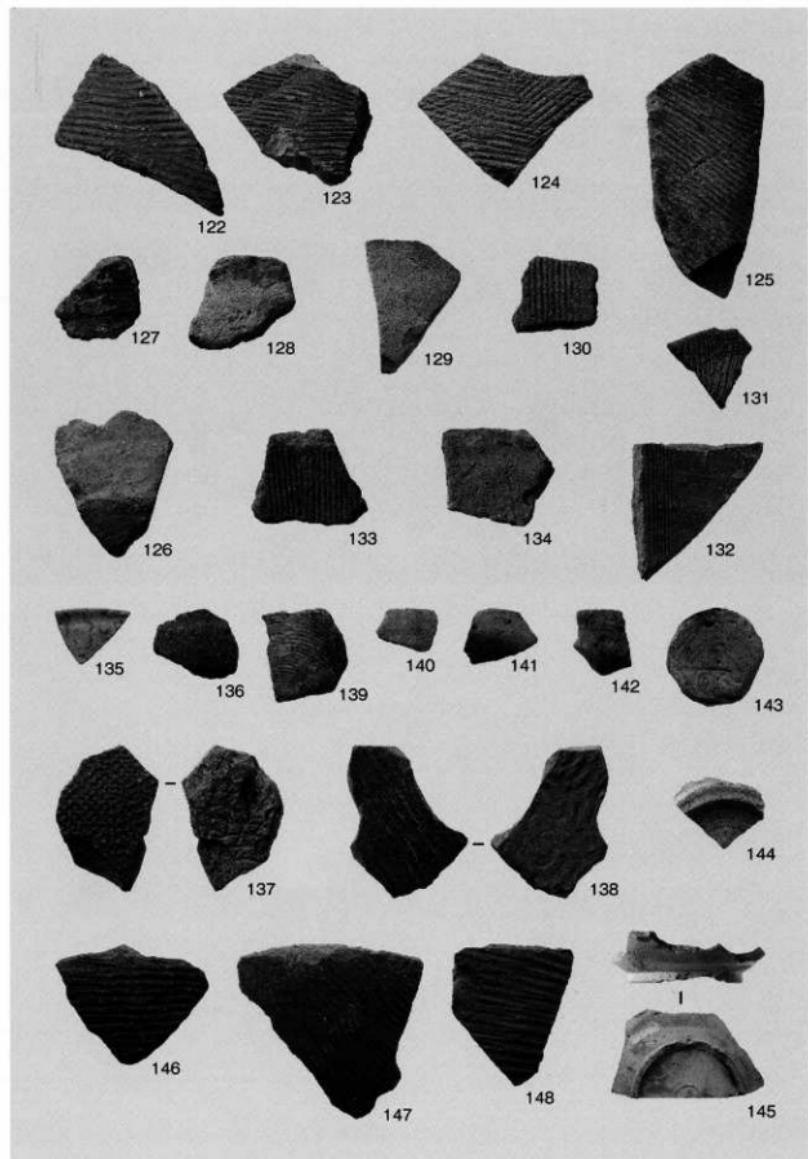
図版10 遺物写真 (2)



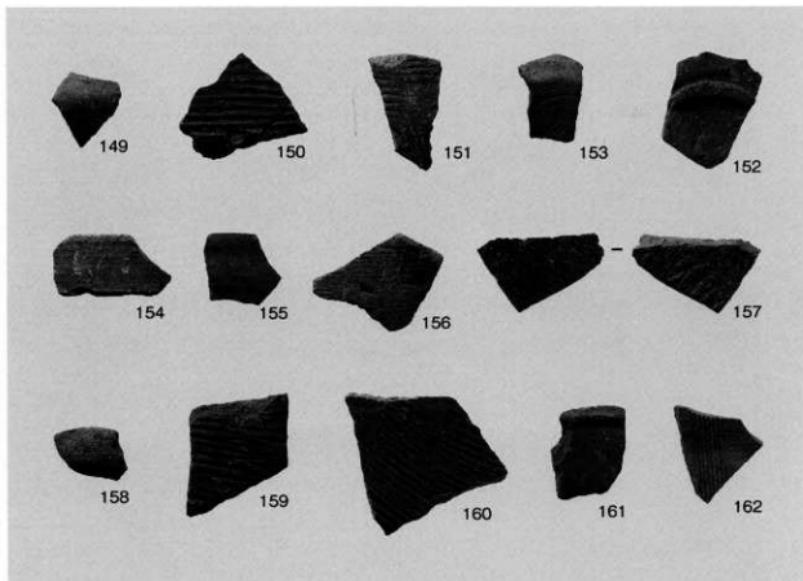
图版11 遗物写真（3）



図版12 遺物写真 (4)



図版13 遺物写真（5）



図版14 遺物写真 (6)

報告書抄録

ふりがな	とやまけん なんとしまいぞうぶんかざいぶんぶちょうさはうこくしち いなみちいきに							
書名	富山県 南砺市埋蔵文化財分布調査報告7 -井波地域2-							
シリーズ名	南砺市埋蔵文化財調査報告書31							
編著者名	次山淳 高橋浩二 金田朋子 小谷望有季 清水俊輝 寸田彩加 山下大希 山場愛弓 宮崎順一郎							
編集・発行機関	南砺市教育委員会							
所在地	〒932-0292 富山県南砺市井波520 TEL (0763) 23-2014				南砺市教育委員会			
発行年月日	西暦2012年3月16日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
市内遺跡	富山県 南砺市 地内	16210	-	36° 34° 00°	136° 52° 40°	20110409 20110410 20111008	-	-
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
市内遺跡	-	縄文 古中世 近世	-	磨製石器 須恵器、土師器 中世土師器、珠洲、 青磁、越中瀬戸、 瀬戸美濃、 その他近世陶磁器		-		

南砺市埋蔵文化財分布調査報告7 -井波地域2-

平成24年3月16日

編集 南砺市教育委員会

印刷牧印刷株式会社

